

令和元年度 ルピナスゼミ

(1) 知って学んで考えよう！男女共同参画

「心の負担を半分にする家事分担術ーがんばりすぎない家事」

- 日時：令和元年 11 月 21 日（木曜日）午前 10 時から 11 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- 講師：佐光 紀子氏（翻訳家・ナチュラルライフ研究家）
- 内容：

日本人の「完璧家事」や「手作り」礼賛の傾向は女性にとって目に見えない圧力となっており、男性や家族の家事参画を阻む要因ともなっています。日本人がやりがちな完璧家事の礼賛や女性に偏る家事負担・家事のやり過ぎを取り上げ、その要因と解決策について考えました。

講師は、「日本の女性は何の疑問を持たず“ケア役割”を担ってきており、家事や家族の世話をやり過ぎる」と指摘、「“妻は結婚すると母になる”傾向は日本人に特徴的なことで欧米では見られない、これが家事をやり過ぎる要因では」という説明に参加者は驚きを持って受け止めていました。講師は、やりすぎ家事の解決策として、（1）やめられる家事はやめる、（2）自分のもの・家族個々人のものは個々人がそれぞれ管理、家族で周知する、（3）できないときは助けを求める、（4）自分に責任の線引きをし、人に任せる、を挙げられ、参加者にとり大きな気づき・共感となりました。

(2) 知って学んで考えよう！男女共同参画

「ルピナスゼミ×Gender でおしゃべり会 で話そう

～子どもの社会はどうなってる？」

- 日時：令和2年3月13日（金）午前10時から正午
- 場所：男女共同参画センター
- ファシリテーター：伯野 朋絵 氏（「Gender でおしゃべり会」主宰）
- 内容：

子どもたちは、集団生活の中で、女の子だから、男の子だから、という価値観を身につけていきます。そういった価値観=ジェンダーはどのように生まれ、子どもた

ちに根付いていくのか、「そんな風に育てたつもりはないのに」という大人の心情にも着目しながら、教育におけるジェンダーについて考えました。子どもや大人が接する家庭や学校、地域といったさまざまな場で、「女／男は…であるべき」「…あるはずだ」という無意識のバイアス（差別）があることを、本当にそうなのか一つ一つ具体例をあげながら検証しました。参加者は、無意識のうちに自分の中にジェンダーバイアスがあることに気づき、大きな驚きと意外性をもって受け止める機会となりました。

平成 30 年度 ルピナスゼミ

(1) 知って学んで考えよう！男女共同参画 「女性差別撤廃条約と私たち」

- 日時：平成 30 年 10 月 19 日（金曜日）午前 10 時から午前 11 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- ファシリテーター：男女共同参画センター職員
- 内容：
今年度から始めた男女共同参画に関する学習会、ルピナスゼミ。第 1 回は、男女共同参画についてもっと知りたいという市民の方に参加していただきました。テーマの女性差別撤廃条約は国連が採択した人権条約の一つで、女性に対するあらゆる差別の撤廃を基本理念とするものです。条約が批准された経緯と意義、また、条約が私たちの社会や生活にどのように関わり、影響し、社会や生活を変えていつているのかについて学習しました。この条約は、日本にとって男女平等政策の指針になっているとされています。日本の取り組みや現状を見ながら、現存する女性に対する差別について話し合いました。

(2) 知って学んで考えよう！男女共同参画

「幸せに生きるための処方箋 家事・育児と働き方を棚卸」

- 日時：平成 31 年 1 月 30 日（水曜日）午前 10 時から 11 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター

- ファシリテーター：男女共同参画センター職員

- 内容：

近年共働き世帯が片働き世帯を上回り、働く女性が増えている中、男性の長時間労働は常態化しており、家事育児は女性が一手に担ういわゆる「ワンオペ育児」が問題となるなど、子育て世代の状況は過酷になっています。内閣府の調査などによると、日本では子どものいる女性の幸福度は低いということが分かってきました。男性、女性のどちらか一方に、仕事や家事・育児が偏る暮らし方は、私たちの幸福感にどう影響しているのでしょうか。さまざまな研究や調査を参考に、家事・育児と働き方の現状を捉えながら、幸福感を持てる暮らし方、生き方について考えました。参加者がそれぞれ直面している問題を共有し話し合えたことで、問題解決のヒントにできました。

(3) 知って学んで考えよう！男女共同参画

「幸せに生きるための処方箋 Part2

「仕事も家事・育児も＝ワンオペ育児の乗り切り方」

- 日時：平成 31 年 3 月 8 日（金曜日）午前 10 時から 11 時 30 分
- 場所：男女共同参画センター
- ファシリテーター：男女共同参画センター職員
- 内容：

30 代から 40 代の子育て期にある男性は長時間労働が常態化しており、男性の働き方の見直しが叫ばれています。その一方で、これまで働く妻は、仕事に加え家事・育児の大半を担う、いわゆる“ワンオペ育児”で疲弊しているという状況は見過ごされてきています。“ワンオペ”育児は働く母親に限らず、専業主婦にとっても大きな負担となっており、大半が、家事・育児は妻の役割とされています。女性が家事・育児を担うことになった背景や要因を探り、“ワンオペ育児”の乗り切り方について一家庭での役割分担やパートナーとのコミュニケーションの取り方、子育てコミュニティ作りなど一実践的な解決策について考えました。